

(様式第1号)

平成30年10月30日

認定介護福祉士認証・認定機構  
理事長 大島 伸一 様

領域名：生活支援・介護過程に関する領域  
科目名：認定介護福祉士としての介護実践の視点  
単位数：2単位  
認証申請する研修の名称：認定介護福祉士養成研修

団体名：一般社団法人静岡県介護福祉士会  
団体事務所の所在地：〒420-0856  
静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階  
電話：054-253-0818  
FAX：054-253-0829  
E-mail：shizukai@cy.tnc.ne.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者：一般社団法人静岡県介護福祉士会  
申請責任者：会長 及川 ゆりこ



記

○認定介護福祉士研修認証申請書（別紙1～3）

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	生活支援・介護過程に関する領域	
科目名	認定介護福祉士としての介護実践の視点	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	・介護実践が根拠に基づいていることを理解し、自立を目指した介護実践の視点を獲得させる	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識を統合する科目として、根拠に基づいた介護の考え方、自立支援のための介護実践の視点を理解し、支援を枠組みたてることができる</li> <li>・認定介護福祉士として、医療・リハビリテーション・認知症・心理社会的支援等の各領域で学んだ知識を統合して、介護過程の展開を確認する</li> <li>・地域生活を想定した介護実践が組み立てられる</li> </ul>	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<p>○根拠に基づいた介護 (evidence-based care ; EBC) とは</p> <p>○介護の科学化（支援の根拠の明確化）</p> <p>○生活支援・自立支援を実践するための介護とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実践の視点尊厳をもって対応し、その人らしく生きられるようにQOLの向上を図ることを前提に「現在の状況への対応」「機能改善の可能性の探求」「自立に必要な介護実践の探求」「地域を生活の基盤とする」等</li> </ul> <p>○生活支援・自立支援のためのアセスメント評価すべき基本項目、目的とする動作の確認方法、目的とする動作の獲得の可能性の判断、目的とする動作ができない原因の究明および対策、目標とする動作の指導と連携、獲得できない場合の対応</p> <p>○個別支援計画作成の視点の獲得、EBC、介護の科学化、生活支援、自立支援、介護過程の展開（PDCA）、評価、獲得できる動作の判断と指導、獲得で</p>	<p>「認定介護福祉士としての介護実践の視点」は15回の通学授業で実施する。授業内容は講義と演習で実施する</p> <p>第1回 根拠に基づいた介護、科学的な根拠を考える視点・支援を明確にする根拠の言語化</p> <p>第2回 アセスメント視点の確認① こころとからだのしくみとの関連1（食事と睡眠）</p> <p>第3回 アセスメント視点の確認② こころとからだのしくみとの関連2（更衣と排泄）</p> <p>第4回 アセスメント視点の確認③ こころとからだのしくみ3 （運動力学から見た発達と老化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動作の獲得のプロセス理解・代替動作の修得</li> </ul> <p>第5回 地域移行を目指した自立支援（ノーマライゼーション・地域包括ケアシステム） QOLの向上から考える「自立を見据えた介護実践の探求」「地域生活基盤」</p> <p>第6回 ケアプラン（サービス等利用計画）と個別支援計画の違いから考える介護福祉士の専門性</p> <p>第7回 個別支援計画作成の確認事項</p> <p>第8回 個別支援計画作成の視点1 （事例：自立支援に着目した人権擁護の視点）</p> <p>第9回 個別支援計画作成の視点2 （事例：IPWの視点）</p> <p>第10回 認定介護福祉士としての個別支援計画作成の視点の獲得演習1 （事例：聴く力に着目した視点）</p> <p>第11回 認定介護福祉士としての個別支援</p>

	<p>きない動作に関する支援方法</p> <p>計画作成の視点の獲得演習 2  (事例：伝える力に着目した視点)  第 12 回 認定介護福祉士としての個別支援計画作成の視点の獲得演習 3  (事例：つなぐ力に着目した視点)  第 13 回 認定介護福祉士としての個別支援計画作成の視点の獲得演習 4  (事例：ファシリテートに着目した視点)  第 14 回 認定介護福祉士としての個別支援計画作成の視点の獲得演習 5  (事例：マネジメントに着目した視点)  第 15 回 まとめ・確認試験</p>
研修方法	<p>■通学課程（集合研修）  □通信課程（通信研修）</p> <p>○集合研修講義と演習を組み合わせて行う。評価は担当講師が行う。  ○事前課題  レポート課題：介護の原則を踏まえ、自らの介護観や、介護の原則について再考し、大切にしたい介護実践の視点を 10 項目としてまとめること。尚、1 項目ずつ 100 字程度の概説を行うこと。</p>
研修時間	30 時間（集合研修 30 時間）
修了要件	<p>○全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変といったやむを得ない事情による遅刻又は早退については 30 分を上限として認める。（レポート課題あり）  ○事後課題は A～D の 4 段階評価とし、D 評価の場合は 1 度のみ再提出を認める。なお、事後課題の提出が期限内に行われなかった場合、修了を認めない。  ○欠席の場合は修了を認めない。</p>
講師要件（講師の選定基準）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験があること</li> <li>・修士課程を修了している介護福祉士であることが望ましい</li> <li>・認定介護福祉士資格取得者</li> <li>・補助者（ファシリテーター）についても当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者</li> </ul>
(2)受講者について	
受講対象（受講要件）	<p>単位取得できるのは介護福祉士資格を有する者であること。  ・ I 類の本領域以外のすべての科目を修了していること。</p>
修了評価	<p>修了評価は以下により行う。（①～④の全てを満たすこと）  ①出席状況が修了要件を満たしていること。（全課程の出席。ただしやむを得ない事情による 30 分以内の遅刻又は早退は認める。（レポート課題なし）詳細は修了要件欄を参照。）  ②演習において、発言内容、他者の意見に対する対応、演習内容の理解力等を講師が評価し、一定以上の基準を満たしていること。  ③筆記試験（確認試験）10 問程度、100 点満点中 60 点以上で合格、不合格者は合格となるまで再試験を行う。  ④事後課題 「さまざまなチームを構成し、成果をあげるためにはリーダー自らの価値観が影響する。本科目を終えて、今まで体験した事例を交えて学んだことを 1,600 字程度（A 4 レポート 1 枚）にまとめる。」  この課題の評価が A～C であること。D 評価の場合は再提出を求め、C 以上の評価を得なければならない。  A 80 点以上 B 70 点以上 C 60 点以上 D 60 点未満とし、60 点以上で合格</p>

	とする。不合格者は合格となるまで追試験として同じテーマのレポートを再提出し合格すれば修了とする。
(3) 研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	40名（講師2名）受講生20名に対し1名のファシリテーターを配置する。
開催場所（都道府県）	静岡県総合社会福祉会館シズウエル（静岡県）

【集合研修】具体的なコマシラバス 本科目に関しては1時間を45分換算とする。

1日目【7.5時間】

区分	科目名	時間	内容
1コマ目	オリエンテーション 認定介護福祉士創設の 経緯	9:30～11:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援の意味</li> <li>・介護職が担う職能集団としての役割と機能</li> <li>・根拠に基づいた介護、科学的な根拠を考える視点介護福祉士が担うべき役割・支援を明確にする根拠の言語化</li> </ul>
	休憩	11:00～11:10	
2コマ目	根拠に基づいた介護の 科学化	11:10～12:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント視点の確認①</li> <li>こころとからだのしくみとの関連1（食事と睡眠）</li> </ul>
	昼食休憩	12:40～13:40	
3コマ目	生活支援・自立支援を 実践するための介護	13:40～15:10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント視点の確認②</li> <li>こころとからだのしくみとの関連2（更衣と排泄）</li> </ul>
	休憩	15:10～15:20	
4コマ目	介護実践における根拠 を考える演習①	15:20～16:50	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従前のエビデンスケア：生活行為の援助から考えパフォーマンスできる</li> <li>・アセスメント視点の確認③</li> <li>こころとからだのしくみ3（運動力学から見た発達と老化）</li> <li>・動作の獲得のプロセス理解・代替動作の修得</li> </ul>
	休憩	16:50～17:00	
5コマ目	介護実践における根拠 を考える演習②	17:00～18:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域移行を目指した自立支援（ノーマライゼーション・地域包括ケアシステム）</li> <li>・求められるエビデンスケア</li> <li>生活の連続性を意識した援助から考えパフォーマンスできる</li> <li>・QOLの向上から考える「自立を見据えた介護実践の探求」「地域生活基盤」</li> </ul>

2 日目【7.5 時間】

区分	科目名	時間	内容
1 コマ目	認定介護福祉士としての個別支援 計画作成の視点① 介護現場における介護職チーム	9:30～11:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例（認知症）による個別支援計画の作成・演習</li> <li>・ケアプラン（サービス等利用計画）と個別支援計画の違いから考える介護福祉士の専門性</li> </ul>
	休憩	11:00～11:10	
2 コマ目	認定介護福祉士としての個別支援 計画作成の視点② チーム運営と職種間連携	11:10～12:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例（認知症）による個別支援計画の評価・演習</li> <li>・個別支援計画作成の確認事項</li> </ul>
	昼食休憩	12:40～13:40	
3 コマ目	認定介護福祉士としての個別支援 計画作成の視点③	13:40～15:10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援計画作成の指導方法・講義</li> <li>・個別支援計画作成の視点 1 (事例：自立支援に着目した人権擁護の視点)</li> </ul>
	休憩	15:10～15:20	
4 コマ目	認定介護福祉士としての個別支援 計画作成の視点④	15:20～16:50	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援計画作成の指導の実際・演習 1</li> <li>・個別支援計画作成の視点 2 (事例：IPW の視点)</li> </ul>
	休憩	16:50～17:00	
5 コマ目	認定介護福祉士としての個別支援 計画作成の視点⑤	17:00～18:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援計画作成の指導の実際・演習 2</li> <li>・認定介護福祉士としての個別支援計画作成の視点の獲得演習 1 (事例：聴く力に着目した視点)</li> </ul>

3日目【7.5時間】

区分	科目名	時間	内容
1コマ目	認定介護福祉士としての個別支援 計画作成の視点⑥ 介護現場における介護職チーム	9:30～11:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職チーム運営</li> <li>・職種間連携の考え方</li> <li>・チームアプローチの手法</li> <li>・チーム内における価値観や専門的知識の共有手法</li> <li>・認定介護福祉士としての個別支援計画作成の視点の獲得演習2 (事例：伝える力に着目した視点)</li> </ul>
	休憩	11:00～11:10	
2コマ目	認定介護福祉士としての個別支援 計画作成の視点⑦ チーム運営と職種間連携	11:10～12:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム内・職種間の調整能力、コンフリクトの解決方法</li> <li>・必要な実践力(尊厳を支えるケア、自立支援の視点に基づく介護、介護の専門性等)</li> <li>・認定介護福祉士としての個別支援計画作成の視点の獲得演習3 (事例：つなぐ力に着目した視点)</li> </ul>
	昼食休憩	12:40～13:40	
3コマ目	認定介護福祉士としての個別支援 計画作成の視点⑧ 求められるリーダーシップ 【講義】	13:40～15:10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討・チーム内のリーダーとしての態度</li> <li>・他職種との連携の在り方</li> <li>・介護チームの構造化</li> <li>・認定介護福祉士としての個別支援計画作成の視点の獲得演習4 (事例：ファシリテートに着目した視点)</li> </ul>
	休憩	15:10～15:20	
4コマ目	介護実践の視点①【演習1】 求められるリーダーシップ 【演習後半】	15:20～16:50	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定介護福祉士に必要なコミュニケーション能力</li> <li>・介護の専門性の言語化</li> <li>・認定介護福祉士としての個別支援計画作成の視点の獲得演習5 (事例：マネジメントに着目した視点)</li> </ul>
	休憩	16:50～17:00	
5コマ目	介護実践の視点②【演習2】 求められるリーダーシップ 【演習後半】 【自職場への展開演習】	17:00～18:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定介護福祉士に必要なコミュニケーション能力</li> <li>・介護の専門性の具現化</li> <li>・総括(まとめ・確認試験)</li> </ul>

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実地体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 2019年11月22日・23日
	② 2019年12月14日
	③
開催場所 (会場)	① 静岡県総合社会福祉会館 (静岡市葵区駿府町1-70)
	② //
	③
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	<p>○認定介護福祉士としての介護実践の視点 野田由佳里氏 聖隷クリストファー大学社会福祉学部教授</p> <p>学歴：聖隷クリストファー大学大学院博士後期課程修了 (社会福祉学博士)</p> <p>職歴： ・社会福祉法人豊生会 特別養護老人ホーム彩幸 ・学校法人穂の国学園 中部福祉専門学校 ・学校法人足立学園 愛知文教女子短期大学 ・学校法人聖隷学園 聖隷クリストファー大学 (現在に至る)</p> <p>担当科目・講師経験・調査研究実績</p> <p>・担当科目 【介護福祉論】【高齢者福祉論】【社会福祉概論】【介護過程】 【チーム介護論】【包括的ケア論】</p> <p>・講師経験 平成17年以降 介護福祉士養成教育専任教員や、愛知県・岐阜県・静岡県などの介護福祉士会主催の各種研修講師を担当。</p> <p>・調査研究実績 研究テーマ【介護人材の定着】【腰痛予防】【ケアの質の向上】等。 2015年 文部科学省科学研究費採択 「動作分析による腰痛予防に着目した移乗介護技術習得のためのセルフチェック法の開発」研究代表者 2017年 文部科学省科学研究費採択 「外国人を対象とした地域型介護における人材定着を促す好循環システムの開発」研究分担者として参加 2018年 文部科学省科学研究費採択</p>



「介護職と管理職でつくる仕事のやりがいと経営安定が両立する職場改善プログラムの開発」

2019年 文部科学省科学研究費採択

「タスクシェアリング活用に着目したアドバンスケアモデルの構築」

研究代表者

主な研究論文

1. 野田由佳里「介護職員の仕事意識に関する考察」2011年
2. 野田由佳里「離職に及ぼすケアの質に関する研究～特別養護老人ホームで働く介護職員の実態～」2012年
3. 野田由佳里「介護福祉実践現場と介護福祉士養成校とのOJTにおける協働に関する報告～A県B法人との取り組みの課題」2012年
4. 野田由佳里「介護職員の仕事のやりがいに関する一考察 同一社会福祉法人に勤務する職員の傾向性」2013年
5. 野田由佳里「介護職員の就労継続に関する報告—A施設の取り組みと課題—」2013年
6. 野田由佳里「デイサービスにおける就業構造」2015年
8. 野田由佳里「デイサービスに従事する熟練ワーカーの就業意識」, 2015年
9. 野田由佳里「ユニットケアにおける情報共有の現状」2016年

主な著書：

- ・中央法規「介護福祉士国家試験解説」
- ・保育総論社「介護概論」

担当する講義等

事後課題評価

野田由佳里氏

経歴等は同上

(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	認定介護福祉士養成研修実行委員会（非常勤:6名） 委員会事務局（担当事務局員：常勤2名・非常勤2名） 認定介護福祉士養成研修委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連間や留意点について共有する。またできる限り研修実行委委員会の委員が研修に参加・見学し、研修内容を評価するとともに、随時研修の見直しを図る。
研修の企画運営に関する諸規程	静岡県介護福祉士会の定款、研修委員会の諸規程に準ずる。
研修管理責任者職名	会長
研修管理責任者氏名	及川 ゆりこ
機構問合せ先部署	静岡県介護福祉士会事務局
機構問合せ先担当者氏名	平野 美智子
機構問合せ先電話番号/FAX	054-253-0818 / 054-253-0829
機構問合せ先 e-mail アドレス	shizukai@cy.tnc.ne.jp
受講問合せ先部署	静岡県介護福祉士会事務局
受講問合せ先担当者氏名	平野 美智子
受講問合せ先電話番号/FAX	054-253-0818 / 054-253-0829
受講問合せ先 e-mail アドレス	shizukai@cy.tnc.ne.jp
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	静岡県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	○紙媒体及びデータによる台帳管理 ○データ保存期間は最低10年間とし、その後は、紙媒体で保管する。 ○個人情報の取り扱いにおいては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	各科目を修了した時点でその科目の修了証明書を発行し、全課程を修了したのものには、全課程を修了した証明書を発行する。
管理責任者氏名	及川 ゆりこ（会長）
管理担当者氏名	平野 美智子（事務局長）